

氏 名：柳村 直子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第192号

学位授与年月日：2020年3月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：主査 堀内 成子（聖路加国際大学教授）

副査 片岡 弥恵子（聖路加国際大学教授）

副査 森 明子（聖路加国際大学教授）

副査 中根 直子（日本赤十字社医療センター 看護副部長）

論文題目：社会的ハイリスク妊婦スクリーニングシステムの改善の試み

博士論文審査結果

A 総合周産期センターの妊婦健康診査で活用している社会的ハイリスク妊婦スクリーニングシステムは、導入して5年経過していたが、記入漏れ、スクリーニング判定ミス、要支援者の見逃し等の課題があった。その改善を目的としたスクリーニングシステムの変更と実施という2段階の実装を行った。

実装アウトカムの結果は、改訂版スクリーニング項目、スクリーニング判定のプロトコル、スクリーニング判定の記録、啓発のポスター掲示は、助産師からの受容性、適切性、実行可能性が高く、多職種にも浸透度は高かった。またスクリーニング方法のタブレット化に関しては利用する妊婦の受容性、実行可能性は高かったが、助産師の実行可能性、適切性は低く課題が残った。組織的アウトカムは、記入漏れなく97.7%の実施率であり、タブレット式利用者の完成率は100%であった。プロトコル作成により、正確に判定できる割合も93.4%から96.1%に上昇した。タブレット式スクリーニングシステムを利用した者全員の実績を毎月集計し「安心母と子の委員会」に報告することが可能となった。つまり、変更したスクリーニングシステムを実装化したことにより、組織的アウトカムが上がったことは、概念モデル通りの結果を示した。

審査の中で指摘されたことは、実装化手順と記述の一貫性、妊娠後期の妊婦に限定した理由の加筆、結果における記述と図表の整合性、研究者の関与やサイトチャンピオンに対する考察の不足、関与が不明瞭な家庭訪問の記述の変更、スクリーニング実績に関する考察の必要性等であった。

本研究は、スクリーニングの実施が不適切であり、要支援者を見逃すリスクを抱えていた実態から、システムの変更・改善・実施により、結果としてハイリスク者を見出し必要な部署へ連携することを可能にした。まさに実装というテーマにふさわしい課題

であった。

実装戦略において鍵となった〈機能しやすいチームの結成〉、〈適切なステークホルダーの分析とアクションプランの作成〉、〈実装化のビジョンの伝達〉という知見は、次の実装研究への足掛かりとなり、臨床現場の改善に貢献すると考えられる。

柳村氏は、地道に現場の課題を拾いあげ、多様な人材を繋ぎ・調整し、推進する役を見事にやり遂げ、実践現場の変革者としての力量をいかんなく発揮して本研究を完成させた。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。